担当医/指導医	/
目的	□ 積極的治療　□ 症状緩和
	□ 術前補助　□ 術後補助
告知程度	□全告知　□部分告知　□未告知
告知内容	□ 癌（ 原発 ・ 再発 ・ 進行 ）
	□ 抗癌剤を使用する
服薬指導	□ 依頼する
	看護師（　　）　薬剤師（　　）
HBV感染スクリーニング	□ 確認済み

身長：　cm　体重：　Kg	
体表面積　m^2	

大腸癌　カンプト+ベクティビックス療法

カンプトとベクティビックスは、2週間毎に点滴

投与開始日　　年　　月　　日　　クール予定

● ベクティビックス　6mg/kg　計算量：　mg　投与量：　mg
（一般名パニツマブ、商品名ベクティビックス）

● カンプト　150mg/m^2　計算量：　mg　投与量：　mg
（CPT-11：一般名イリノテカン、商品名カンプト）

【投与スケジュール】

Day1	1） パロノセトロン点滴静注バッグ 0.75mg/50mL	1V	15分	
	デキサート　1．65mg	5A		
	2）生食50mL	1V	全開	
	3）生食100mL	1V	1時間以上	ベクティビックスは1回投与量が1,000mgを超える場合生食で希釈し約150mLとし、90分以上で点滴
	ベクティビックス　（	）mg		
	4）生食50mL	1V	全開	
	5） 5%TZ　250mL	1V	1時間30分	
	ブスコパン　20mg	1A		
	カンプト　（	）mg		
	6）生食50mL	1V	ルートフラッシュ	

【 注意・確認事項 】

【 ベクティビックス　適正使用ガイド2013.3より抜粋 】

★ 生食に希釈し使用すること。
★ ベクティビックス投与の前後には、生食を用いて点滴ラインをフラッシングすること。
★ インラインフィルター（0．2ミクロン又は0．22ミクロン）を通して、投与すること。
★ Infusion reaction に注意！

・Grade3以上の重度のInfusion reactionを発現した場合：
本剤の投与を直ちに中止し、症状に応じて治療を行い、本剤は再投与しないこと。

・Grade2のInfusion reaction が発現した場合：
本剤の投与を中断し、症状に応じて治療を行い、症状軽快後は、患者の様子を慎重に観察し、投与再開の可否を検討。本剤投与を再開する場合は、投与速度を減じて慎重に投与すること。なお、次回以降の本剤投与時には、Infusion reaction予防のためのプレメディケーションを強化すること。

・Grade1のInfusion reaction が発現した場合：
患者の様子を観察しながら、投与速度を減じて慎重に投与すること。なお、次回以降の本剤投与時には、Infusion reaction予防のためのプレメディケーションを考慮すること。

【参考】米国のベクティビックス添付文書には、「本剤投与中に、軽度又は中等度（Grade1又は2）のInfusion reactionが発現した場合には、投与速度を50%減速する」と記載しています。

【Day2、3の内服薬】※症状に応じて省略可

Day2、3	デカドロン（4mg）	1錠	分1 朝食後	2日間